

性選別精液による経産牛の人工授精受胎率は発情同期化処理後 12 時間で高い傾向にある

福島県農業総合センター 畜産研究所動物工学科

1 部門名

畜産－乳用牛－畜産繁殖

2 担当者

樋口久美・白石芳雄

3 要旨

乳牛の性選別精液は、雌産子を高い確率で分娩させることが可能であるが、経産牛では受胎率が通常精液に比べ低い。経産牛の性選別精液による人工授精受胎率は、発情同期化処理(GnRH投与)後12時間で高い傾向にある。

(1) 発情同期化処理(表1)後、子宮角深部注入により人工授精を行った。

(2) GnRH投与(day9)12 時間後と、同 24 時間後に人工授精を行った結果、GnRH投与12時間後 33.3%(9 頭/27 頭)、同 24 時間後で 25.9%(7 頭/27 頭)であった。(表 2)

表1 発情同期化プログラム

処理日程	処理内容	備考
day0	GnRH投与、CIDR挿入	GnRH:酢酸フェリチレリン酸として 200 μ g
day7	PGF2 α 投与、CIDR抜去	PGF2 α :ジノプロストとして 25mg
day9	GnRH投与	

表2 性選別精液による定時人工授精結果 単位(頭)

	GnRH 投与 12 時間後		GnRH 投与 24 時間後	
	実施頭数	妊娠頭数	実施頭数	妊娠頭数
平成 25 年度(確定)	13	6	13	4
平成 26 年度	14	3	14	3
総合計 (受胎率*)	27	9 (33.3%)	27	7 (25.9%)

* 受胎率(%)=妊娠頭数／実施頭数 × 100

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成25年度～26年度
- (2) 研究課題名 持続的な畜産経営を可能とする生産・管理技術の実証(性選別精液による人工授精技術の検討)
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

なし